

ノーモア・ヒバクシャ通信 第27号

発行 2016年2月29日

ホームページ <http://www.kiokuisan.jp/>
継承ブログ <http://keishoblog.com/>
フェイスブック <https://www.facebook.com/kiokuisan>

発行者 ノーモア・ヒバクシャ記憶遺産を継承する会
〒102-0085

東京都千代田区六番町 15 プラザエフ 6F

Tel/Fax 03-5216-7757 (直通)

Email hironaga8689@gmail.com

郵便振替口座 00170-5-694752

(口座名義) ノーモア・ヒバクシャ記憶遺産基金

★もくじ

I. 改めてクラウドファンディングご協力のお願い	P 1
II. 部会、作業グループの取り組みから	
1. 資料庫部会	P 2
2. 継承交流部会	
(1) 被爆者運動から学び合う学習懇談会	
第2回目は、山手茂さんを囲み「被爆者問題をみつめる」	P 2
(2) 被爆70年「被爆者として言い残したいこと」	
ボランティアによる調査回答の入力作業はじまる	P 3
3. 広報電子化部会	P 3
III. 各地の取り組み、関連企画から	
1. ヒロシマ・ナガサキを語り受け継ぐネットワーク	P 4
2. 【岡山】『被爆七十年 次世代に語り継ぐ被爆体験記』が発刊されました。	P 6
3. 【神奈川】『被爆者からの遺言 神奈川の被爆者が最後に伝えたいこと』 が発刊されました。	P 6
4. 【東京】4/22～「Yes Peace! 2016 平和の種をまこう!」のご紹介	P 6
5. 【東京】トークセッション<ヒロシマ・2016 連続講座>のご紹介	P 7
6. 《紹介》クレイアニメ「父子の別れ」のご紹介	P 7

はじめに

2月25日付で、東京都より「仮認定特定非営利活動法人」として決定の通知がありました。これにより向こう3年間、税制上の優遇措置を受けられることとなります。

詳細は改めてご案内いたしますが、まずは急ぎご報告いたします。

I. 改めてクラウドファンディングご協力のお願い

「ノーモア・ヒバクシャ記憶遺産デジタル・アーカイブ」制作プロジェクトの一環として、2月よりインターネットを通じた資金調達ご協力のお願いを本通信臨時号でご案内したところです。すでにご寄付いただいた方々には、心より感謝申し上げます。しかし、せっかくアクセスいただいたのですがトラブルが発生し、結局アクセスができなかったという声も寄せられています。そのため、そうした声を踏まえて別紙のように追記・修正した

「インターネットを通じた資金調達のお願い【2月24日改訂版】」を同封しました。これに基づき、改めて取り組みをお願いいたします。

なお、インターネットではなく、同封の振込用紙でご寄付いただける方には、振込取扱票の通信欄「ハ. 寄付金」に「〇〇〇円（デジタル・アーカイブ）」と明記してお振込みくださるようお願いいたします。

II. 部会、作業グループの取り組みから

1. 資料庫部会

愛宕事務所では、学年末試験が終わった昭和女子大の松田ゼミ生（1、2年生）の協力により、2月19日から3月にかけて7日間の春休みを利用した資料整理作業が始まっています。今回はまず、日本被団協の1980年代の運動資料から着手。基本懇意見後に全国各地で取り組まれた「原爆と戦争を裁く国民法廷」の記録や、85年調査の証言集『「あの日」の証言』英訳出版の記録（英訳ボランティアの申出書や翻訳原稿）など、被爆者運動の多様なとりくみに驚きの声もあがります。資料の多くはホチキスでとめられていて、錆び付いたものも少なくありません。金具の綴じ具をプラスチック製のものに付け替える作業はけっこう手間がかかりますが、黙々と作業にとりくむ学生さんらのおかげでどんどんはかどっています。

作業日程の後半には、1990年代から20年間にわたって取り組まれた「被爆者の自分史」の「つうしん」、原稿・作品や手紙、資料などの整理にかかれる予定です。

南浦和の資料室（コーププラザ浦和4階）では、昨秋から始まった書籍・冊子類の目録作成作業が、原則として毎週火曜日に行われています。これまでに寄贈された書籍類は、大きなスチール製の書架8台いっばいに（各段の前後2列に並べられ）分野ごとに仕分けされています。これまでに、体験記・手記類のうち各県・地域の被爆者団体、個人、その他の諸団体によるものや、文学・芸術関係のうち童話・絵本・漫画などの入力ほぼ終わり、証言誌や原爆文学（詩歌、小説・エッセイ・評論など）にとりかかっています。

書籍類の整理のベースになるのは日本被団協が事務所に所蔵している書籍・冊子類。その目録どりも並行して進められるよう、物理的・人的条件を整えることが急務となっています。

【訂正】前号「通信」で、松浦崇さんを「司書」とご紹介しましたが、正しくは「学芸員」の資格をお持ちです。訂正しおわび申し上げます。

2. 継承交流部会

（1）被爆者運動から学び合う学習懇談会

第2回目は、山手茂さんを囲み「被爆者問題をみつめる」

昨年11月から始まった被爆者運動に学び合う学習懇談会の2回目は、3月19日（土）の13：30～16：30、プラザエフの5階会議室で開くことになりました。

今回の問題提起者には、山手茂さん（茨城大学および新潟医療福祉大学名誉教授、保健医療社会学）をお招きします。原爆投下当時、広島県福山市の中学生だった山手先生は、1954年に広島女子短大に赴任。原水爆禁止運動や被爆者運動のごく早い時期に、社会学者として広島における被爆者調査・研究に参画され、日本原水協の『原水爆被害白書』や日本被団協の援護法要求運動に大きな力となった「つるパンフ」の作成にも関わってこられました。

当時の運動の実情を知る数少ない専門家。その頃にかかれた作品を読み合いながら、被爆者問題、被爆体験、原水爆禁止運動について考え合うことのできる貴重な機会になることと思います。ぜひ、多数ご参加ください。〔⇒ 申込方法など詳細は、同封のチラシをご覧ください。〕

なお、第3回目の学習懇談会は4月23日（土）の午後、日本被団協が原爆被害「受忍」政策を事実で打ち破るべく全国1万3千人余を対象に行った1985年原爆被害者調査をテーマに行う予定です。この調査に専門家として参画した故・石田忠さん（一橋大学名誉教授）の講演ビデオを用いながら、同じく調査の企画・分析にあられた濱谷正晴さんから問題提起をしていただきます。

会場などの詳細については、追って、継承する会のホームページなどでお知らせします。

（2）被爆70年「被爆者として言い残したいこと」

ボランティアによる調査回答の入力作業はじまる

日本被団協と継承する会が被爆70年の夏に呼びかけた「被爆者として言い残したいこと」調査は、現在まで700人分が回収されています。埼玉のしらさぎ会が「被団協」新聞に調査票を同封して協力を呼びかけるなど、さらに一人でも多くの被爆者の声を集めるための努力もつづけられています。

調査の作業グループでは、調査回答の入力フォーマットとガイドラインを作成、選択肢項目と自由記述項目それぞれの入力作業が10名ほどのボランティアの手で始まっています。（3月末までに集約の予定）

また、新年度からは、より詳細な聞きとりによる追加調査を（まずは首都圏の各県から）実施するため、調査項目の検討や研究助成費用の申請などの条件づくりもすすめています。

3. 広報電子化部会

2月7日、2月28日と東京四ツ谷主婦会館プラザエフで広報電子化部会が岡山担当理事をはじめ4名の参加で開催されました。部会では「被爆体験継承ポータル」や「継承ブログ」の仕組みや内容の見直しについて話し合いました。

「被爆体験継承ポータル」は2015年度中に「伝えたい側」「受け継ぎたい側」の登録制をやめて、この間に「継承ブログ」に寄稿、紹介させていただいた記事とリンクさせ

たリスト形式で掲載する形にリニューアルすることにしました。「継承ブログ」は各地の様々な取り組みの情報が掲載されるようになってきましたが、情報が寄せられるのを待つのではなく取材に行き、実際に取り組んでいる人たちと交流することが提案され、2016年度に向けてどのように具体化するかについて今後話し合いを進めていきます。

Ⅲ. 各地の取り組み、関連企画から

1. ヒロシマ・ナガサキを語り受け継ぐネットワーク

1月29日（金）に第11回目の打ち合わせが東京四ツ谷主婦会館プラザエフで開催されました。11名が参加して、2013年から昨年末に開催した「ヒロシマ・ナガサキを語り受け継ぐつどい」までをふり返り、ノーモア・ヒバクシャ記憶遺産を継承する会の今後の取り組みについて話し合いました。

【これまでのふり返りで出された意見】

- 12月のつどいや日比谷の被団協のつどいは映像を中心として、初めて来ても入っているようになっていた。若い人たちにも伝えやすい、いい方法だと思う。いろんな人たちを見つけているのもよいと思うが、その土台は地域でのそれぞれの活動なので、この会は大事だと思う。
- NPTに向けて被爆者の声を聞きとり、それを抜粋してメッセージをつくり、国連に届けてもらった。12月のつどいは最初、参加者が少ないと心配していたが、最終的には118名になってよかった。
- 3月で91歳になるが、被爆者としての務めを果たさなければと、神奈川県下で証言をしている。それが私の使命だと思っている。広島・長崎に原爆を落とされたのに、なぜ日本は原発をあんなにつくったのか、腹立たしくてしょうがない。今の若い人たちにしっかり教えておかなければならないと思う。
- 2013年から高校生が被爆体験を継承する場として参加してきた。12月の集会そのものは若い人たちも参加してよかったが、高校生や若い人たちに被爆体験を継承するということはいったい何なのか、どれだけこの間のとりくみのなかで深めることができたか、が心残りだ。ともすれば、集会があつて、そこに若い人たちをどう参加させるかとか思いがちだが、高校生にすれば70年も昔のこと。それを自分たちの問題として受け止めていくにはどうしたらよいか、自分のなかでも明確にしたい。
- 重点課題は若い人にどう継承していくか。70年の節目に若い人が参加するきっかけにはなったが、被爆70年が終わりこのあとが本当に大事。何のために、なぜ、どうやっ

て継承していくのかを考え、しっかりとつなげていきたい。

○90歳もいれば高校生もいる、幅の広さは感じた。実際体験した人たちがいなくなった時に、どう伝えていくのか、考えている。12月のつどいは、盛りだくさん過ぎて深まる前に終わってしまったという気がした。

【継承する会の今後の取り組みについて】

昨年10月にノーモア・ヒバクシャ記憶遺産を継承する会の第1回継承交流部会が開催されました。「ノーモア・ヒバクシャ記憶遺産継承センター設立構想」にもとづき、センターの「継承・交流活動」の中身～被爆者と継承者とをつなぎ・学び合う諸活動の「場」となる、被爆者の歩み・運動を伝える～をつくっていくことが課題となっています。

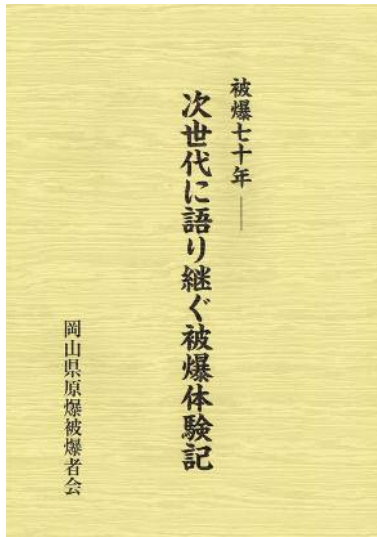
そこでは①一人でも多くの被爆者の証言を聞き取り残すこと、②なぜ原爆が使用されたのかを専門家の協力も得ながら明らかにすること、③被爆者運動は何を訴え求めつづけてきたのかを学び合い知らせること、④継承者（継承活動の担い手）の養成、の4つのテーマが提起されました。

第11回打合せでは、事務局の栗原から②および③に関わる「被爆者運動から学び合う学習懇談会」の企画内容について紹介し、①に関わる「被爆70年調査について～一人でも多くの被爆者のこえを聞く～」として同調査作業グループの根本雅也さん（一橋大学大学院社会学研究科・特別研究員）から調査の概要と入力作業や今後の聞き取りによる追加調査への協力のお願がありました。「継承者の養成」をめぐるのは同じく八木良広さん（愛媛大学教育学部・特定研究員）から、「継承する会として、継承とはどういうことなのかについて、方向性やビジョンがあるのか？」と率直に疑問に思った。一般には、国立市や広島市の伝承者養成講座のイメージがあると思うが、自分自身が研究者として、十数年以上、被爆者の人生経験にどう向き合えばよいのか、研究としてだけでなく、自分が生きるうえでどうしたらよいのかをずっと考えてきた。また、大学生を相手に15回も講義をしてくると、当初、原爆のことは知ってはいるけど自分には関係ないでしょ、と言っていたのが、自分と関連するとか、この問題に目を背けてはいけないとか、どう被爆者のことを理解すればよいか、など、自分なりに考えることのできる学生もちらほら出てくる。継承とは何か、大きな方向性やビジョンを示すことができるようになればよいと思う。そのためには、被爆者に限らず戦争体験者から何かを継承していこうと活動している取り組みにふれ、その人たちと交流しながら、その人たちの継承のあり方に学んでいくことが重要なのかと思う、という問題提起がありました。

ヒロシマ・ナガサキを語り受け継ぐネットワークの活動は、ノーモア・ヒバクシャ記憶遺産を継承する会の継承交流活動として引き継いでいきます。

具体的な取り組みについては今後、継承する会の web サイトやこの「通信」でご案内させていただきます。

2. 【岡山】『被爆七十年 次世代に語り継ぐ被爆体験記』（岡山県原爆被爆者会）が発刊されました。



岡山市原爆被爆者会より『被爆七十年 次世代に語り継ぐ被爆体験記』（岡山県原爆被爆者会）をご寄贈いただきましたのでご紹介します。

*本誌は非売品、本代500円+送料=実費

【お問い合わせ】

平末 豊（岡山市原爆被爆者会会長）

FAX 086-264-3227 郵便振替口座 01250-4-8384

3. 【神奈川】『被爆者からの遺言 神奈川の被爆者が最後に伝えたいこと』



（神奈川県原爆被災者の会）が発刊されました。

神奈川県原爆被災者の会より『被爆七十年 被爆者からの遺言 神奈川の被爆者が最後に伝えたいこと』をご寄贈いただきましたのでご紹介します。

4. 【東京】4/22～「Yes Peace! 2016 平和の種をまこう!」のご紹介

4月22日から10日間、東京・新宿区の早稲田奉仕園で、「Yes Peace! 2016 平和の種をまこう!」と題して、世界ヒバクシャ展の写真展と、北朝鮮を取材し続けている写真家

の伊藤孝司さんの映画とトークなどのイベントが開催されます。（主催 NPO 法人世界ヒバクシャ展）

初日 22 日の 18:30~20:30 には、世界 100 カ国での写真展開催を目指して「世界ヒバクシャ展を応援する会」の発足記念パーティーも開かれます（会費 5000 円・事前申し込み）。

※詳しくは下記サイトをご覧ください。

<http://bit.ly/lohYHNz>

連絡先 hibakushaten@gmail.com

080-3558-3369（安在）

5. 【東京】トークセッション<ヒロシマ・2016 連続講座>のご紹介

ノーモア・ヒバクシャ記憶遺産を継承する会正会員の竹内良男さんが、「71 年目の戦後」の今年、1 年を通しての『トークセッション<ヒロシマ・2016 連続講座>』にとり組んでおられます。第 3 回目は 3 月 26 日（土）13:00~16:00、関千枝子さん（同正会員）による「原爆で死んだ少年少女たち」です。9 月までの予定表と合せてご紹介します。

詳しくは同封のチラシ<ヒロシマ・2016 連続講座>をご覧ください。

6. 《紹介》クレイアニメ「父子の別れ」のご紹介

「ピースボートおりづるプロジェクト」のブログに被爆者の体験記を粘土を使ったアニメーション作品にした取り組みが紹介されています。広島で被爆した廣中正樹さんの体験記をご本人と若者が協力して粘土を使ったアニメーション作品にしました。ぜひ、ご覧ください。

■ブログ：

<http://ameblo.jp/hibakushaglobal/entry-12115314174.html>

以上